



CQM(超短期経済予測モデル)

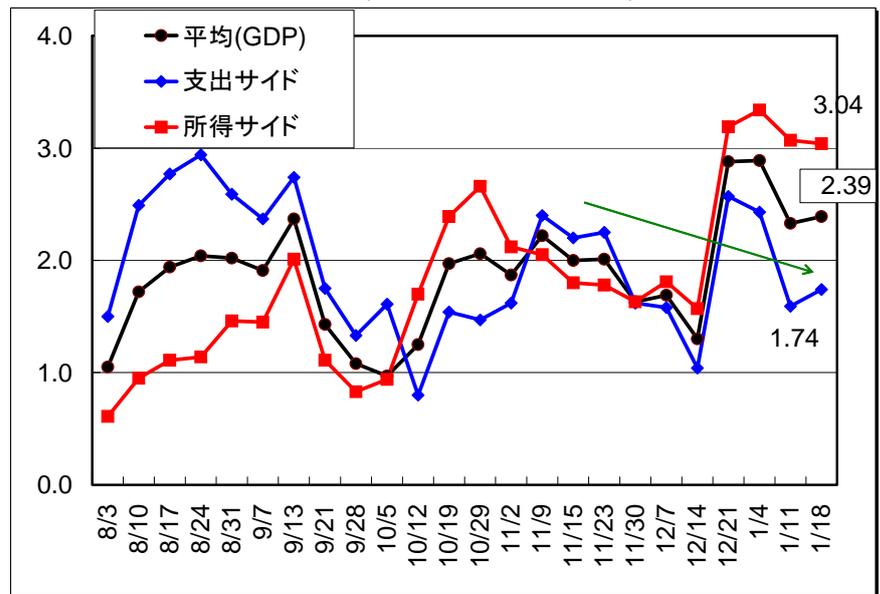
熊坂侑三 (APIR リサーチリーダー, ITエコノミーCEO)
内容に関するお問い合わせは下記まで
e-mail:kumasaka@iteconomy.com

米国経済(週次)予測(2013年1月18日)

ポイント

- ▶今週の CQM が 10-12 月期 GDP (速報値) の最終予測となる。発表される実質 GDP は CQM の支出サイドからの予測値に近くなるだろう (図表)。
- ▶米政府は速報値 GDP の発表に対して 12 月の企業在庫、建設支出、輸出入などを仮定しなければならない。今回最も難しい仮定は 10 月、11 月とそれぞれ前月比で-2.4%、4.4%と大幅に変化した財輸出の 12 月の仮定値だろう。CQM は-0.1%と予測している。
- ▶米景気は GDP でみると景気回復のモーメントがみられないが、総需要、国内需要、最終需要でみると 12 月初旬から景気回復のモーメントがみられている。
- ▶この景気回復を持続的なものにするには、オバマと共和党による“政府の債務残高上限引き上げ”などの速やかな解決が不可欠である。

CQM 予測の動態：実質 GDP 成長率
2012Q4 (%、前期比年率換算)



<10-12 月期の実質 GDP (速報値) 伸び率は支出サイドからの CQM 予測値に近くなるだろう>

1月18日のCQM予測は11月の企業在庫、12月の連邦政府支出、小売販売、鉱工業生産指数、生産者物価指数(PPI)、消費者物価指数(CPI)を更新した。今週のCQMは10-12月期の実質GDP伸び率を支出サイドでは1.59%から1.74%へ上方に修正し、所得サイドでは3.07%から3.04%へとわずかに下方に修正した(図表)。両サイドからの平均実質GDP伸び率は2.33%から2.39%へと0.06%上方に修正された。

今週のCQMが10-12月期GDP(速報値)の最終予測となる。通常、CQM予測において月次経済指標の多くの実績値を更新することによって、支出・所得両サイドからの2つのGDP予測値が徐々に収束していく。しかし、今回のように両サイドからの予測値にかなりの差が生じることがある。このような時、CQM予測の経験から、発表されるGDP速報値は支出サイドからのCQM予測値に近くなる場合が多い。そして、GDP改定値の時に計算される統計上の誤差が今週のCQMの予測値(\$1328億ドル)をかなり下回るだろう。

図表にあるGDPからみると、米経済回復のモーメントはみられないが、総需要、国内需要、最終需要などのアグリゲートされた指標のCQM予測は12月初旬から景気回復の上昇トレンドを形成している。これらの指標から10-12月期の経済成長率をみると2%~3.5%になっている。米景気は回復基調にある。これを持続的な経済成長に結び付けるには、更なる金融緩和ではなく、オバマ大統領と共和党における“延期された財政の壁”と“政府債務残高の上限引き上げ”の2つの問題の速やかな解決である。この2つの問題が年末・年始の“財政の壁”問題の解決のように長引けば、景気回復への不確実性が増し、持続的経済成長への芽を摘むことになる。オバマがこれらの問題解決の根本的な鍵が財政支出の削減にあると理解し、共和党に譲歩することである。しかし、オバマがバイナード下院議長との年末のクローズドミーティングで“We don't have a spending problem”そして“I'm getting tired of hearing you say that.”と言ったことを考えると、これらの問題がオバマ、共和党の間でスムーズに解決される可能性は小さいと思わざるを得ない。

・本レポートは執筆者が情報提供を目的として作成したものであり、当研究所の見解を示すものではありません。
・当研究所は、本レポートの正確性、完全性を保証するものではありません。また、本レポートの無断転載を禁じます。
・お問い合わせ先：一般財団法人アジア太平洋研究所 contact@apir.or.jp 06-6441-0550